

# 競技ボッチャ競技規則（シングル・団体）

## 1. 設備と器具

### (1) コート

コートは、コート図のとおりとする。

### (2) ボール

1セットは、赤ボール6個、青ボール6個、白のジャックボール（目的球）1個である。

マイボールの使用も認める。ただし、競技前に必ず審判に申し出る事とする。

## 2. ゲーム方式

(1) シングルは、3番と4番のボックスを用いて行なう。

(2) 団体のチーム構成は、3名1組とし、障害者2名以上とする。

(3) シングルは、**予選・決勝ともに4エンド**で行なう。団体は、**予選リーグは4エンド、決勝トーナメントは6エンド**で行う（申し込み数によって変更あり）。

1エンドとは、両者が全てのボールを投げ終わったときとする。

(4) ボールの変更は競技中にはできない。

(5) 選手は介助者に競技の補助（ランプの支えや車いすの介助など）をしてもらっても良いが、介助者は競技中コート方向に振り返ってはいけない。

(6) 団体は、競技前にエントリーシートに選手名を記入し審判に渡す。4名以上エントリーしているチームの場合、選手交代を認める。ただし、交代はエンド間のみとする。その場合は審判に申し出る事とする。

※その他、選手の体調不良などにより交代する場合も審判に申し出てください。

## 3. 勝 敗

(1) 各エンドの得点を加算し、合計点がより多いチームの勝ちとする。同点の場合には、タイブレイクにより決定する。

(2) タイブレイクはジャックボールをクロス（コート図+）に置き、コイントスで先攻・後攻を決定し行う。投球は1人1投（団体は3投）とし、ジャックボールに一番近いチームの勝ちとする。タイブレイクは、ゲームの勝敗をつけるものであり、合計点に加算しない。また、両者に同数の得点が入らない限り1エンドで勝敗を決定する。

## 4. ゲームの展開

(1) コイントスで先攻（赤ボール）・後攻（青ボール）を決める。

(2) シングルでは、赤から交互にジャックボールを投げる。

団体は、1エンドは赤の1番の人がジャックボールを投げる。ジャックボールが有効だった場合、続けて同じ人が赤ボールを投げる。ジャックボールが無効の場合は相手ボールとなり、青の1番がジャックボールを投げる。

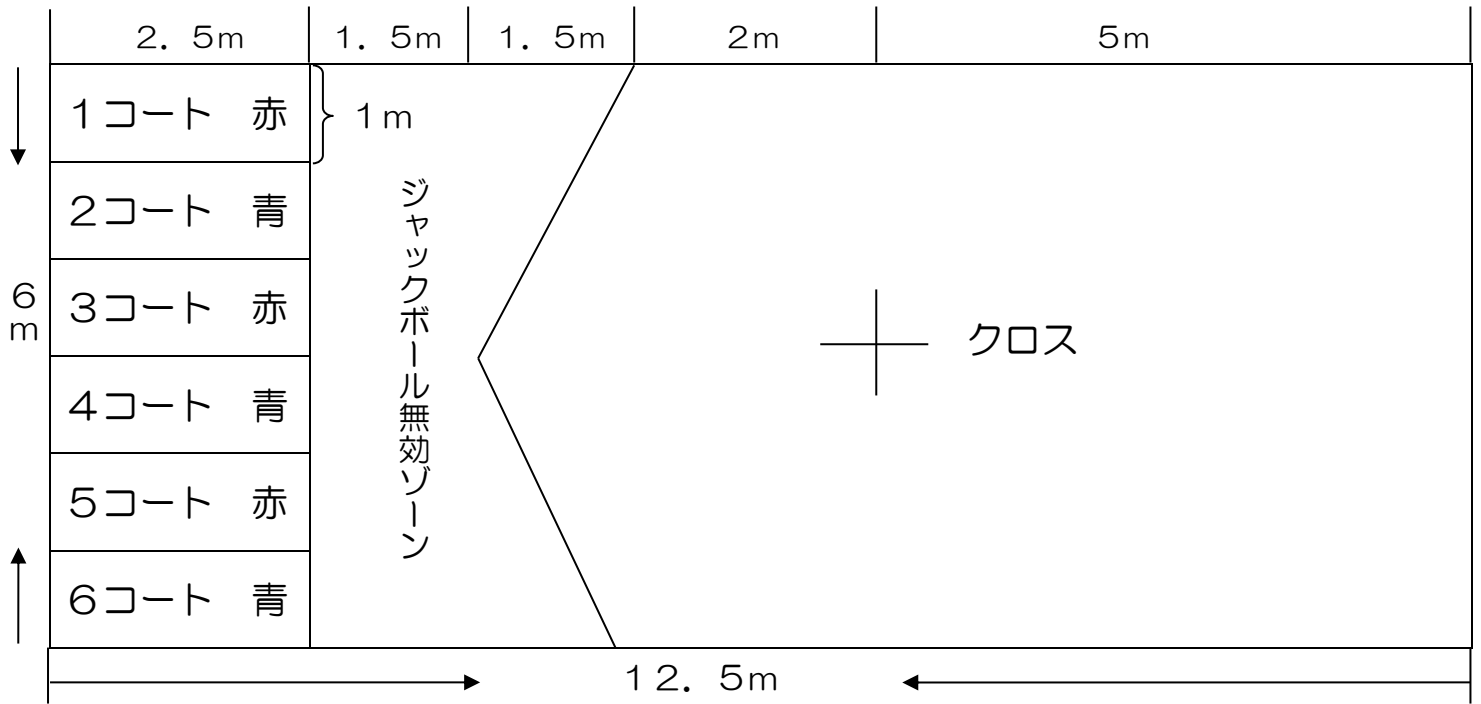
（例）ジャックボールが無効とは、ジャックボール無効ゾーンでボールがとまったとき、もしくは、コート外に出てしまったとき。

- (3) 赤→青と投げたら、次はジャックボールに近いボールが赤だったら青チームが投げる。  
以下同様にジャックボールに遠い距離にあるチームが投げる。
- (4) スローイングボックスの中であれば、どこから投げても良い。自チームの投球指示板が出されているときに限り、チーム内（選手同士）で相談しても構わない。
- (5) 以下の場合はファールとする。
- A. エンド中、スローイングボックスから移動する前に審判に許可を求めなかった場合
  - B. 線を越える、もしくは踏んで投げた場合（車いす、装具、杖を含む）
  - C. 補助具（ランプ）や、車いす介助者がスローイングゾーンのラインに触れる、もしくは超えて投球した場合（空間も含む）
  - D. 審判の指示板が出される前に投げた場合  
ファールとなったボールは、除外する。
- ※ファールを宣告された場合、相手チームにペナルティーボール 2 球を投げる権利を与える事とする。
- (6) 投げたボールや、ぶつけられたボールがコート外に出た場合には、アウトとなり出たボールは所定の場所に置く。ジャックボールがカラーボールにぶつけられコート外に出た場合は無効となる。無効になったジャックボールはクロス（コート図十）に置く。
- (7) 両者（チーム）が全てのボールを投げ終わったら、得点をつける。得点は、ジャックボールの一番近くに赤ボールがある場合は、ジャックボールとジャックボールから一番近くにある相手の青ボールまでの距離を半径にして円を描いて、その中に何個ボールがあるかを判定する。赤ボールが3個あれば、3対0で赤の勝ち。【得点例参照】
- (8) 審判がジャックボールを取り上げた時点でエンドが終了する。選手は異議がある場合、得点を発表してから審判がジャックボールを取り上げるまでの間に、手をあげ審判に申し出る。  
選手はゲーム終了までいかなる場合であっても、審判の了解を得てからでないとスローイングボックスから出てはいけない。
- (9) 1 エンドが終わったら、次は青が先攻となり同じようにゲームを行う。

## 5. その他（競技上の注意点）

- (1) クラス分けは行わずオープンクラスとする。
- (2) チームのエンドごとの持ち時間は適用しない。
- (3) 競技中に審判から、自分たちが投球する番であると指示がなければ、チームメイトとコミュニケーションをとってはいけない。
- (4) コート内のランプ介助者は、エンド中はコートに背を向け、振り返る事はできない。また、ランプ介助者、身体介助者ともに、選手への競技について助言する事は、一切認めないものとする。  
ただし、コート外の定められた責任者による、重度の知的障害者や視覚障害者への投球順の助言については認めるが、相手チームの不利になるような助言は認めない。

【コート図】



【得点例】

赤ボール ●  
 青ボール ●

